

第4回包装近未来シンポジウム

— 科学技術イノベーションと包装～ロジスティクス・情報技術・新素材の観点から～ —

- 開催日：平成29年3月29日(水)
- 会場：公益社団法人日本包装技術協会 会議室
- 主催：公益社団法人日本包装技術協会

開催にあたって

包装における世界の流れは、①サステナビリティ ②消費者 ③技術革新をキーワードとして、大きく変貌しつつあります。技術革新といえば、これまでは主に一次包装が注目されていましたが、今回は川上におけるバイオ新素材技術ならびに川下におけるロジスティクスを取り上げました。バイオ由来では、ポリエステル樹脂(PET)代替に関する事例です。日本の樹脂製造技術が海外のバイオベンチャーと提携し世界に大きく羽ばたこうとしています。ロジスティクスにおいては、ネット販売や買い物弱者の増加に対して、労働力不足が急速に社会問題化し、このことが知能ロボット、センサーや画像認識技術等を組み合わせたスマートロジスティクスの実用化を促進しつつあります。さらに増加の一途をたどる青果物の鮮度保持輸送も食品ロス削減の大きな課題になってきました。

それらの具体的な事例によって、サステナブル社会を目指す近未来包装の一端を皆さまとともに展望できることを期待しています。

講演者・パネリストの紹介

■上田 実 氏

株式会社 日通総合研究所
Sales Development Unit Account Officer
1985年 株式会社 日通総合研究所 入社
物流に関する調査、研究、コンサルティング業務に従事。現在に至る
日本MH協会 MHジャーナル編集委員会 委員長

2006年 パッケージング開発部部長
2009年 パッケージング開発部部長兼工業フィルム開発部部長
2014年 化成品生産技術総括部総括部長

■中野 茂 氏

大日本印刷株式会社 情報イノベーション事業部
C&Iセンターソリューションエンジニアリング本部
1989年 中央大学大学院修了
1989年 大日本印刷株式会社入社 包装総合開発センター
2010年 CBS事業部 事業企画室室長 RFIDの事業開発に従事
2015年 ISO/TC46 国内委員会委員
2016年 情報イノベーション事業部 システム機器エンジニアリング部 課長

■後藤 敏彦 氏 (企画委員)

NPO法人 サステナビリティ日本フォーラム 代表理事
認定NPO法人環境経営学会会長、NPO法人日本サステナブル投資フォーラム理事・最高顧問、(一社)グリーンファイナンス推進機構理事、(一社)グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン理事、など。
環境省事業／環境情報開示基盤整備事業WG座長／環境コミュニケーション大賞コーディネーター・審査委員／Eco-CRIP事業検討会座長など複数委員会の座長・委員を務める。元大手損保会社勤務、元GRI運営委員・理事、東京大学法学部卒業。
著書：『ISO 26000実践ガイド』(2011 共著、中央経済社) 他多

■細見 源介 氏

郵船ロジスティクス株式会社
第一総合開発営業部 物流技術開発営業課長
最終学歴：Griffith University (Australia) Master of commerce in Banking & Finance
双日勤務時ではエネルギー・金属関連の貿易、事業管理に従事。豪州滞在中に出会ったSTRANG SYSTEMSという特許技術を軸にしたビジネスモデルを考案し、現職にて事業化し、それを中心に重量物の海上コンテナ内梱包の改善、改良を日々行っている。

■有田 俊雄 氏 (企画委員)

有田技術士事務所 所長
1956～1976年 日本パルプ工業(株) (現 王子製紙(株))、1976～1997年 ダイバパッケージング(株) (現・三菱商事パッケージング(株))を経て、1997～2007年 米国Packaging Strategies社日本代表、2007～2014年 (株)パッケージング・ストラテジー・ジャパン取締役社長。2015年以降、現職。2005年米国包装功労者として包装殿堂入り、2013年 JPI「長年包装人材の育成に貢献」表彰。Institute of Packaging Professionals (USA)会員、International Packaging Press Organization (IPPO) 名誉会員。現在はグローバル・パッケージング・コンサルタントとして、海外ネットワークおよび海外定時定点観測をベースに、先端技術探索、市場調査、技術提携、人材交流を通じて、企業間オープンイノベーションの橋渡し役を務める。「生涯・包装人」として、「食品ロス削減に向けた包装の役割」、「2030年包装未来予測」を提唱中。東京大学・工学部・応用化学科卒業。

■原岡 哲也 氏

Symphony Creative Solutions Pte. Ltd.
Project manager
東京大学経済学部卒業後、大手国際物流企業勤務を経て英国クランフィールド大学にて Logistics & Supply Chain Managementの修士号(MSc)を取得。物流コンサルティング、サウジアラビアでのプロジェクトマネージャーを経て2009株式会社 MTIに入社し、日本郵船グループの物流技術の研究開発および商品開発に従事。
現在、シンガポールのNYK GROUP SOUTH ASIA PTE. LTDに出向し、Symphony Creative Solutions Pte. Ltd.にてビッグデータなどを活用した物流ソリューションの開発に取り組んでいる。

■住本 充弘 氏 (企画委員)

住本技術士事務所 所長
2004年1月 大日本印刷(株)を定年退職し、以後コンサルタント活動に入る。世界の包装展視察や世界の企業の包装コンサルタント活動や国内企業のコンサルタント活動が続いている。日本技術士会会員、技術士包装物流グループ会員、日本包装学会会員、日本包装コンサルタント協会会員、日本包装管理士会会員
技術士(経営工学)、包装管理士、業界誌に執筆多数

■森重地加男 氏

東洋紡株式会社 参与 化成品生産技術総括部 総括部長
1983年 京都工芸繊維大学卒業
1983年 東洋紡株式会社入社
2001年 堅田フィルム技術センター部長

プログラム

時 間	テ ー マ	講演者
10:00 11:00	「物流を取り巻く環境変化と今後の展望・課題について ートラック輸送を中心にー」 近年、物流を取り巻く環境は大きく変わってきています。特に労働力不足の状況は著しく、年末や年度末の繁忙期には貨物が予定通りに輸送（出荷）できないような状況も発生しています。また、大型車両が絡んだ重大事故などの発生を受け、ドライバーの労働時間管理を含む運行管理の強化・徹底は不可欠であり、これまでのような「ドライバーへのしわ寄せ（無理）」に頼るやり方では、輸送ができなくなる危険性も否定できません。国土交通省などが目指している「物流業務の生産性向上」への取組みは、物流サービスの安定的供給の継続には不可欠であり、これを実現するためには受発注など荷物の動静をコントロールする荷主が運送事業者などと協力し合って取り組む必要があります。 さらには、MH機器や自動化機器、IOTやAIなど先進的なテクノロジーや情報システムを積極的に取り入れた物流システムの構築などにも挑戦する必要があると考えています。	株式会社 日通総合研究所 Sales Development Unit Account Officer 上田 実 氏
11:10 12:10	『サプライチェーンにおける情報技術の活用』 2000年代初期に日本でも大きな話題を集め、流通の分野でも数多くの実証実験が行われたRFID。その後、図書館や医療の領域では順調に市場形成が進んだが、流通分野で定着することは無かった。ここ数年で普及が目覚ましいUHF帯RFIDは、コストの低下／安定した性能を獲得したこともあり、アパレルなどの分野で広がりを見せている。一方、日本の労働人口の減少は今後止まることが無く、さまざまな業界に影響を及ぼし始めている。これは大手コンビニチェーンが実証実験を開始した理由の一つにもなっている。人手不足解消にRFIDが役立つことは元より、サプライチェーン上でRFIDが生み出す膨大なデータを利活用することで、新たな価値を創出しようという動きが始まっている。サプライチェーン上で発生したビッグデータを加工／流通させる、プラットフォーム構想など、サプライチェーンとIoT、情報利活用に関してご紹介させていただきます。	大日本印刷株式会社 情報イノベーション事業部 C&Iセンター ソリューションエンジニアリング本部 中野 茂 氏

企画委員

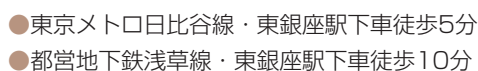
本シンポジウムは下記企画委員の皆様のご協力により開催しております。

- 後藤 敏彦 氏 NPO法人 サステナビリティ日本フォーラム 代表理事
- 有田 俊雄 氏 有田技術士事務所 所長
- 住本 充弘 氏 住本技術士事務所 所長

時 間	テ ー マ	講演者
13:10 14:10	『物流技術イノベーションと物流ビッグデータ活用』 ①「国際輸送における鮮度保持技術／EPSの可能性」 郵船ロジスティクス(株)が取り組む鮮度保持技術を紹介します。加えて、重量物をコンテナ内に安全かつ効率的に梱包する特許技術“ストラングシステム”を紹介し、その技術の中核をなす素材であるEPS（発泡ポリスチレン）の物性/特性とその可能性についてお話しします。既存概念を超えて新しいアプリケーションを考えた開発者Robert William Strang氏の発想転換、たがはずし事例を紹介します。 ②「サステナブルな物流に向けたロジスティクスビッグデータの活用」 『輸送中センサーデータを利用したフードロスチャレンジの紹介などを通じ、物流におけるセンサーデータの役割について考察。加えて今後広がりが見込まれるモバイルアプリケーションを利用した物流データ活用の取り組みについて、シンガポールのスタートアップ拠点Block71に設立されたSymphony Creative Solutions社より紹介させていただきます。	①郵船ロジスティクス株式会社 第一総合開発営業部 物流技術開発営業課 課長 細見 源介 氏 ②Symphony Creative Solutions Pte. Ltd. Project manager 原岡 哲也 氏
14:20 15:20	『東洋紡のフィルム事業の環境対応戦略』 東洋紡のフィルム事業の基本戦略の一つとして「環境対応」があります。環境対応のキーワードとして、「減容化（薄膜化）」、「バイオ」、「リサイクル」を念頭に置き、種々の開発を進めております。現在まで上市した該当フィルムの紹介を中心に、当社の重金属フリーPET重合触媒技術の紹介、及び昨年プレスリリースしました将来の機能性材料として期待される100%バイオ・ポリエステル/ポリエチレンフラノエート（PEF）の紹介をいたします。	東洋紡株式会社 参与 化成品生産技術総括部 総括部長 森重 地加男 氏
15:30 17:00	パネルディスカッション 『これからの科学技術イノベーションと包装』 【司会進行】 有田技術士事務所 所長 【パネリスト】 (株)日通総合研究所 Sales Development Unit Account Officer 大日本印刷(株) 情報イノベーション事業部 C&Iセンター ソリューションエンジニアリング本部 郵船ロジスティクス(株) 第一総合開発営業部 物流技術開発営業課 課長 Symphony Creative Solutions Pte. Ltd. Project manager 東洋紡(株) 参与 化成品生産技術総括部 総括部長 NPO法人 サステナビリティ日本フォーラム 代表理事 住本技術士事務所 所長	有田 俊雄 氏(企画委員) 上田 実 氏 中野 茂 氏 細見 源介 氏 原岡 哲也 氏 森重地加男 氏 後藤 敏彦 氏(企画委員) 住本 充弘 氏(企画委員)

開催要領

- ## 会場案内



申し込み方法

1. 個人情報とは「包装近未来シンポジウム」の事業実施に関わる資料等の作成、並びに当会が主催・実施する各事業におけるサービスの提供や事業のご案内のために利用させていただきます。なお、作成資料は開催当日、関係者に限り配布する場合があります。
2. 参加申込みによりご提供いただいた個人情報は、法令に基づく場合などを除き、第三者に開示・提供することはありません。

No.

会社名							
所在地	(〒)						
電 話				FAX			
参加者	氏名		所属 役職			e-mail	
	氏名		所属 役職			e-mail	
	氏名		所属 役職			e-mail	